



飛躍への挑戦！
高知県産業振興計画

変わろう・変えよう・産業と暮らし
第3期高知県産業振興計画 ver. 4

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)
安芸地域抜粋版

平成31年2月

高 知 県

1 安芸地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、高知県の東部に位置し、海・山・川の恵まれた自然と温暖な気候を活かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、年々人口が減少し、昭和30年代半ばには10万人余であったものが、平成27年の国勢調査における当地域の人口は48,350人となり、前回（平成22年）と比較して9.7%減少するという状況になっています。

こうした状況に歯止めをかけるため、各市町村においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、産業振興や地産外商、移住の促進等に取り組んでいます。

産業分野別の現状として、農業では、地域の特性に応じた多様な農業が展開されており、特に平野部は冬春ナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。

施設野菜については、全国に先駆けて天敵昆虫を利用した総合的病害虫管理を取り入れた栽培に取り組み、消費地からも安全・安心の野菜産地として高い評価を受けるとともに、収量・品質の向上を目指した環境制御技術の迅速な導入に取り組んでいます。

一方、ユズについては、平成24年度に始まった日本初のヨーロッパへの青果輸出が、毎年継続して行われており、ヨーロッパでの知名度が徐々に高まっています。また、北川村の大規模な園地整備や馬路村の村外労働力を確保する取組等、将来に向けてユズ産地を維持するためのしくみづくりに取り組んでいます。

林業では、生産性の向上による原木の増産を進めるため効率的な作業道配置による「森の工場」の活性化を進めています。室戸市、東洋町を中心とする地域では、ウバメガシ原木が不足する中、ウバメガシ以外のカシ類による備長炭の品質向上方法を検討するほか、その他広葉樹原木により白炭と黒炭の中間的な新製品の製造を開始するなど新たな商品開発を進めています。

また、馬路村では、製材・木材加工品の販売力強化のため事業戦略づくりを進めるほか、産振アドバイザーを活用しての販路開拓を進めています。

水産業では、国際的な漁獲規制や資源の減少、魚価の低迷、燃油価格の高止まりによる漁業経費の増大など、取り巻く環境は厳しさを増していますが、キンメダイの消費拡大を目指し、関西市場を中心に販売促進などに取り組んだ結果、高級食材としての認知度が定着し、魚価の向上につながりました。また、地域の基幹漁業の一つである定置網漁業の漁獲物等の販売促進やイサキ、マダイ等の地域の主要魚種の高鮮度処理による付加価値の向上、移住促進策と連携した就業希望者の掘り起こしや研修制度の充実等による担い手の育成・確保の取組を進めています。

商工業では、地域資源である海洋深層水やユズ等を活用した商品などの製造に加え、農工商連携や6次産業化などにより新商品の開発を進めています。奈半利町では、地元の農産物や魚の加工販売を行う2つの施設（「奈半利のおかって」、「加領郷魚舎」）を整備する等、地産外商に向けた取組が進んでいます。

観光では、圏内には自然や歴史、文化遺産などの多彩な魅力をもった観光資源があり、多くの観光客が訪れています。

平成27年度に開催された東部地域博覧会を契機として、新たな地域資源の掘り起こしや観光プログラムの造成等が行われ、安芸地域の魅力度が向上したことから、さらなる観光

資源の磨き上げや情報発信を行うため、平成28年2月に「(一社)高知県東部観光協議会」を設立し、9市町村が連携して広域観光の推進並びに日本版DMOへの登録に向け取り組んでいます。

また、平成29年から約2ヶ年にわたり開催した「志国高知 幕末維新博」を通じ、地域会場を中心に歴史観光資源の磨き上げや周遊コースづくりが行われ、本年2月から開催中の「リョーマの休日～自然&体験観光キャンペーン～」の取組の中でも自然・体験型観光資源の磨き上げや、事業者連携による観光商品の開発などの取組が進んでいます。そして、平成29年度に日本遺産に認定された「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」についても、平成30年度に関連5町村と関係団体で構成する「中芸のゆずと森林鉄道日本遺産推進協議会」を立ち上げ、体験イベントの開催や関連観光商品の開発など新たな取組が行われています。

(2) 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取組と歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路の拡大の取組を継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における機能の強化にも引き続き取り組めます。

農業分野では、ユズの青果出荷の拡大と品質の向上のための新植、改植を進めていくとともに、ユズ果汁等の安定供給と販路拡大を図ります。

林業分野では、高級品として紀州産と並び称される土佐備長炭の生産量の拡大に引き続き取り組むとともに、魚梁瀬スギを代表とする地域の特色ある木材を活用し、消費者ニーズに合った木製品の開発及び販売強化を進めていきます。

水産業分野では、地域の基幹産業である定置網漁業について、漁獲物の高鮮度処理による付加価値の向上と販路の拡大を進め、漁業生産と雇用の安定を図ります。また、地元水産物を活用した加工品の製造・販売などに引き続き取り組むとともに、加工施設の衛生管理体制の高度化を進めます。

商工業分野では、地域資源のユズや天日塩、キンメダイ、イチジクなどを活用した加工品の開発及び販路拡大、生産管理の高度化を行い、道の駅や農産物直販所などにおいても、情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めます。

観光分野では、東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させるために、(一社)高知県東部観光協議会を中心として、教育旅行の受入体制の整備や拡大、滞在型観光の推進により、交流人口の拡大に取り組んでいます。

また、「志国高知 幕末維新博」、「リョーマの休日～自然&体験観光キャンペーン～」を契機として、着地型観光商品の開発や周遊コースの整備に取り組むとともに、日本遺産の魅力をPRし、持続的な観光振興の基盤の確立に向けた取組を進めます。

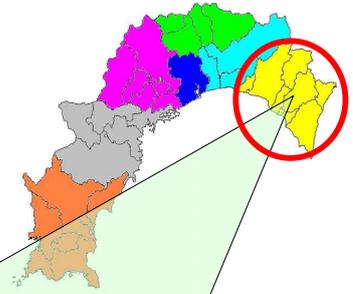
(3) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ユズの加工仕向量	H26 : 4,489 t	H31 : 5,000 t
土佐備長炭の出荷量	H26 : 1,076 t	H31 : 1,580 t
圏内主要施設訪問者数 <注1>	H27 : 2,401,821人	H31 : 2,606,000人
圏内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H27 : 138,229人	H31 : 150,000人

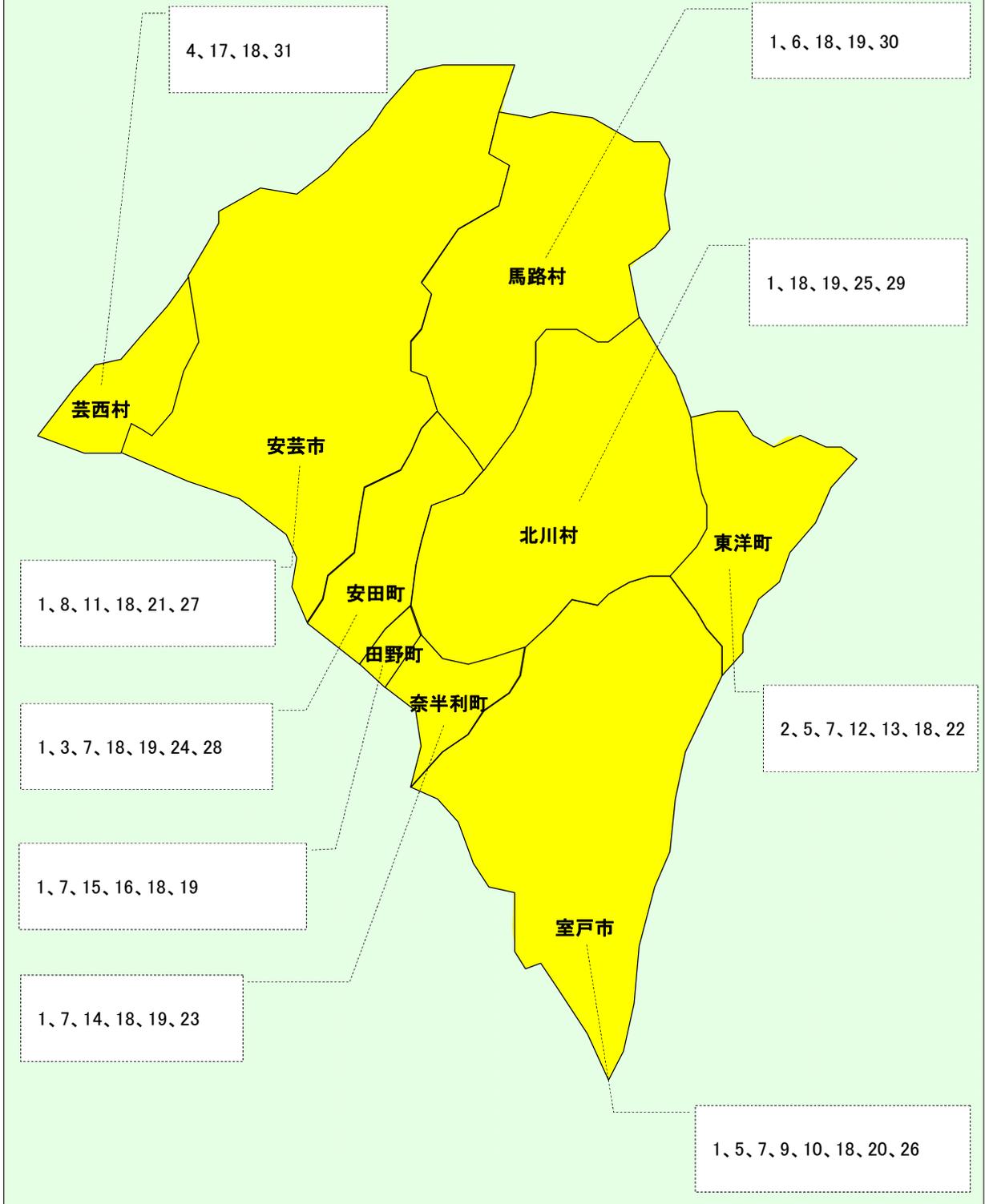
注1 : 室戸世界ジオパークセンター、キラメッセ室戸（鯨館）、北川村「モネの庭」マルモッタン、中岡慎太郎館、安芸市立書道美術館、安芸市歴史民俗資料館、内原野陶芸館、安芸こころざし社中等安芸地域9市町村内の観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数

(4) 具体的な取組

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
1	ユズを中心とした中山間振興	●	●		●	●	●	●	●	
2	ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興			●						
3	やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進						●			
4	白下糖の生産拡大と新商品の開発									●
5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
6	林業加工品の販売の促進								●	
7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
8	安芸市のシラス漁業者所得の向上		●							
9	海洋深層水による地域産業の推進	●								
10	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大	●								
11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化		●							
12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
13	有害鳥獣等を活用した商品開発と販路開拓			●						
14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大				●					
15	完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用					●				
16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取組					●				
17	地場産品直販所「かっぱ市」による地域活性化									●
18	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
20	室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興	●								
21	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進		●							
22	東洋町における体験型・滞在型観光の推進			●						
23	奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大				●					
24	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化						●			
25	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大							●		
26	旧椎名小学校を活用した地域振興	●								
27	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり		●							
28	安田中山地区の活性化プロジェクト						●			
29	北川村中部地区の活性化プロジェクト							●		
30	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト								●	
31	集落活動センター「げいせい」を拠点とした“小さくてももっと元気で輝くむら”づくり									●



【安芸地域】



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>1 ユズを中心とした中山間振興</p> <p>《室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p>	<p>日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。</p>	<p>・JA高知県(安芸地区) ・JA馬路村</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 [JA高知県(安芸地区)] ・新植、改植の推進への取組(H21～) ◆県選抜系統を活用した母樹園が設置された(H22)。 ◆母樹園の優良系統樹から穂木を採取し、苗木業者で育苗された苗木が産地内で定植され始めた。(H29)。 ・果汁の販売対策として計画的な施設整備(北川村:H21:搾汁施設、H24:果汁殺菌設備)、JA内に販売対策チームの設立(H24) ◆EU向けに青果輸出に取り組み始めた(H24:3t、H25:3t、H26:3t、H27:4t、H28:4t、H29:8t、H30:3t)。 ◆H24から実施している消費者との交流イベント(収穫祭、料理コンテスト)により、ユズのPRに繋がっている。</p> <p>[JA馬路村] ・ユズ茶(H21)、化粧品(H22)、アルミ缶対応ドリンク充填ライン(H26)、ぼん酢・ドレッシング・化粧品充填ライン等(H29)及びチューブ対応ゆず胡椒充填ライン(H30)の加工施設の導入 ・海外催事への参加(H29) ◆販売拡大に向けて新商品開発が進み、販売に至った(H24:シャーベット2種、ボン酢1種、H25:化粧品3種、ボン酢1種、H26:化粧品2種、調味料3種、H27:化粧品1種、清涼飲料水2種、H28焼肉のタレ1種、H29:調味料6種、ボン酢1種、サプリ1種、H30:ドリンク1種、化粧品2種)。 ◆H18から実施している消費者との交流イベント(ゆずはじまる祭)により、ユズ及びユズ関連商品のPRに繋がっている。</p>	<p>[JA高知県(安芸地区)] ・青果出荷へのシフト ・隔年結果及び品質低下対策 ・母樹園を活用した優良系統の普及</p> <p>[JA馬路村] ・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上</p>	<p>◆新植、改植の推進 [JA高知県(安芸地区)]</p> <p>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p>
<p>2 ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興</p> <p>《東洋町》</p>	<p>東洋町の特産品であるポンカンを活用した加工品の開発をすすめるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保に取り組むことにより地域振興を図る。</p>	<p>・ポンカン生産者 ・甲浦の果樹仲間 ・東洋町</p>	<p>アクションプランの取組開始:H24 ・ポンカンを活用した商品の開発(H22～)。ピール菓子、マーマレード等13商品) ・ポンカンドリンクのテラシ作成(H24) ・関西方面での営業活動(H24～) ◆業務用酒販や飲食店などの新規取引が成立し、既存商品の販路拡大は徐々に進んできた。</p>	<p>・ポンカンを活用した新商品開発と販路拡大 ・後継者の確保</p>	<p>◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大</p> <p>◆後継者の確保</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>新植、改植の推進(青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化)</p> <p>検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底</p> <p>産地内の母樹を活用した苗木確保</p> <p>産地内の母樹苗木を活用した計画的な新植・改植の推進</p> <p>ユズを活用した中山間振興策の検討</p>					<p>青果出荷受入量(1月～12月)</p> <p>(H22:297t)</p> <p>(H23:370t)</p> <p>(H25:398t)</p> <p>(H26:449t)</p>	500t	
<p>ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p> <p>[JA高知県(安芸地区)]</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培基本技術向上による加工用果皮の出荷拡大と隔年結果の是正による果汁の安定供給 大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化 果汁一元化販売の取組による安定した果汁単価の維持 ユズ協事業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出品の拡大(シンガポール、北米、EU等) <p>[JA馬路村]</p> <ul style="list-style-type: none"> 各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組 国内外でのイベントへの参加やアンテナショップの活用による販路拡大の取組 <p>加工施設の検討</p> <p>加工施設の整備</p>							<p>JA高知県(安芸地区)</p> <p>加工仕向量(1月～12月)</p> <p>(H22:4,250t)</p> <p>(H26:4,489t)</p>
<p>商品数</p> <p>(H22 2アイテム)</p> <p>(H26 2アイテム)</p> <p>既存商品の販売数(1月～12月)</p> <p>(H22:1,807本)</p> <p>(H26:3,584本)</p>					4アイテム(累計)		
<p>ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大</p> <p>新規加工グループの掘り起こし</p> <p>既存商品の磨き上げ</p> <p>新商品の検討・開発・販売</p> <p>販売促進活動</p>						<p>JA馬路村</p> <p>加工品販売額(1月～12月)</p> <p>(H21:21億円)</p> <p>(H26:32億円)</p>	36億円
<p>後継者の確保</p> <p>移住・定住の促進による後継者の確保</p> <p>新規就農者の支援</p>					<p>商品数</p> <p>(H22 2アイテム)</p> <p>(H26 2アイテム)</p> <p>既存商品の販売数(1月～12月)</p> <p>(H22:1,807本)</p> <p>(H26:3,584本)</p>		
<p>後継者の確保</p> <p>移住・定住の促進による後継者の確保</p> <p>新規就農者の支援</p>						<p>商品数</p> <p>(H22 2アイテム)</p> <p>(H26 2アイテム)</p> <p>既存商品の販売数(1月～12月)</p> <p>(H22:1,807本)</p> <p>(H26:3,584本)</p>	5,000本

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地域資源を活かした6次産業化事業の推進</p> <p>戦略構想計画の策定</p> <p>加工に適した作物の選定</p> <p>地域資源を活かした新たな加工品の開発、市場調査、販路開拓</p> <p>加工施設整備の検討</p> <p>原料増産に向けた取組</p> <p>起業家創出、企業誘致に向けた取組</p>					<p>起業家創出</p> <p>企業誘致</p>	<p>1社</p> <p>1企業</p>	
<p>「安田の白い夢」の販路の開拓</p> <p>大都市圏を中心とした営業活動の展開による販路の確保</p>							
<p>技術を継承する人材の育成</p> <p>人材の確保</p> <p>製造技術の習得、その他関連する研修等への参加</p>					<p>サトウキビ収穫量</p> <p>(H26:34t)</p>	<p>45t</p>	
<p>白下糖の生産量の拡大</p> <p>遊休農地の有効活用・新規生産者の確保によるサトウキビ作付面積の拡大</p> <p>サトウキビの買取り実施</p>							
<p>白下糖の品質向上</p> <p>栽培層に沿った栽培</p> <p>栽培層の磨き上げ等による収穫量の拡大</p>							
<p>白下糖の販路拡大</p> <p>テストマーケティング</p> <p>商品の磨き上げ</p> <p>商談会や展示会への出展</p>							
<p>新商品の開発</p> <p>商品検討・試作</p> <p>試作商品テストマーケティング</p> <p>試作商品磨き上げ・商品化</p>							
<p>体験メニューの磨き上げ</p> <p>体験メニューの実施</p> <p>検証</p> <p>磨き上げ</p> <p>検証</p> <p>磨き上げ</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 《室戸市、東洋町》	土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図ることにより、産地としてのブランド力の向上を図る。	・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭室戸生産組合 ・土佐備長炭生産組合 ・土佐備長炭東洋組合	アクションプランの取組開始:H21 【室戸市木炭振興会】 ・組織化:H19設立 ・施設等整備(H21:研修窯2基、H22:研修窯1基) ・研修生の受入 (H21:3人、H22:5人、H23:2人、H24:0人、H25:0人、H26:2人、H27:2人、H28:2人、H29:1人、H30:1人) ◆施設整備により、研修生の継続した受入につながっている。 【土佐備長炭生産組合】 ・組織化:H21設立 ・施設等整備(H21:共同窯2基、H22:共同窯1基、保管庫1棟、H25:共同窯4基、フォークリフト1台) ◆施設整備により月産出荷能力(箱=12kg)が増加した。 (H21:2,150箱、H22:3,425箱、H23:3,548箱、H24:3,670箱、H25:4,190箱、H26:3,630箱、H27:5,000箱、H28:5,000箱) ・研修生の受入 (H21:3人、H22:2人、H23:2人、H24:0人、H25:2人、H26:1人、H27:2人、H28:2人、H29:2人、H30:3人) ・原木の一括購入と製品の一括出荷(H21～) ◆出荷量の拡大と品質の安定化につながっている。 ・末端利用者のニーズに対応して、製品規格を10種から19種へ拡大(H21～) 【土佐備長炭室戸生産組合】 ・組織化:H28設立 【土佐備長炭東洋組合】 ・組織化:H30設立	・担い手の育成 ・生産施設等の整備 ・原木の確保 ・経営の強化と安定化 ・ブランド力の向上	◆従事者の拡大 ◆生産施設の整備 ◆カシ類原木の活用 ◆大規模所有者からの原木調達 ◆組織力の強化 ◆新商品の開発 ◆生産拠点の拡大に向けた検討
6 林業加工品の販売の促進 《馬路村》	木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。	・(株)エコアス馬路村 ・馬路林材加工協同組合 ・馬路村森林組合	【(株)エコアス馬路村】 アクションプランの取組開始:H21 ・モノック新バッグの商品化(H21) ・モノックの塗装の改良(H24) ・新商品Kutu-beraの開発(H25) ・国内外の展示会への出展(H21～) ・HPのリニューアルによる直販の強化(H25～) ・新商品の販売開始に合わせて見本市出展、カタログ製作、HPリニューアルの実施(H29) ・販路開拓支援のため産振アドバイザー導入(H30) ◆商品開発、展示会・商談会への出展やHPの改良により営業面は善戦している。 【馬路林材加工協同組合】 ・販路開拓支援のため産振アドバイザー導入(H30) 【馬路村森林組合】 ・骨董、子供用ベッドを新商品として開発(H22～) ・中期経営計画書の作成(H24～) ・丸棒削機1台、材乾燥機1基の導入(H25) ◆職員全員が経営者的な感覚で今後の事業展開や組織運営を考えるようになってきた。また、機械導入により製品品質が向上した。	【(株)エコアス馬路村】 【馬路林材加工協同組合】 ・顧客の確保 【馬路村森林組合】 ・小径木の加工場であるため付加価値のある製品の製造が困難 【全体】 ・村内の人口減少により従事者の確保が困難	◆営業力の強化 【(株)エコアス馬路村】 【馬路林材加工協同組合】 ◆収益性の改善 【馬路村森林組合】 ◆担い手の確保

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
						出荷量 (H26:1,076t)	1,580t
従事者の拡大						新規就労者数 (H24~27 11人)	26人(H28~31累計)
		研修生の受入				製炭窯設置 (H24~26 増設7基)	21基(H28~31累計)
生産施設の整備							
		炭窯、保管庫等の設置					
カン類原木の活用							
		製炭技術の改良等					
大規模所有者からの原木調達							
		原木林の共同購入等					
組織力の強化							
		未加入製炭者の組織化、生産者団体の事務局機能の強化等					
新商品の開発							
		ザツ白炭・黒炭の生産、広葉樹原木を活用した商品の生産					
生産拠点の拡大に向けた検討							
		安芸市等東部地域での生産拠点拡大に向けた検討					
営業力の強化						木製品出荷額 (H22:233,000千円) (H26:251,910千円)	277,000千円
		[(株)エコアス馬路村] 新商品の開発等、展示会等への出展、ホームページの改良等 [馬路林材加工協同組合] 設計士と連携した邸別販売				加工部門雇用者数 (H26:27人)	27人(現状維持)
収益性の改善							
		川上部門の作業員の活用や原木の直接仕入れによるコストの低減					
担い手の確保							
		インターンシップや企業のCSR活動と連携した新規就業者の確保					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
7 安芸地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》	安芸地域の水揚げ高の6割以上を占め地域経済への波及効果の大きい定置網の漁獲物や近海マグロを中心に、高鮮度化(神経メ等)や加工による高付加価値化、新たな販路の開拓による有利販売の取組を促進することにより、漁業所得の向上につなげる。	〔定置網漁獲物〕 ・室戸市定置漁業振興協議会 ・中芸定置網漁業振興協議会 〔近海マグロ〕 ・土佐室戸船軍団 ・美阿丸	アクションプランの取組開始:H21 ・キンメダイの冷凍フィレがサンプル出荷(H25)を経て、定番化 ・定置網漁獲物の簡易加工(イカ沖漬け)を試行(H26) ・大阪の量販店での宣伝販売の実施(H26) ・ハダカイワシ等、低利用魚の加工商品を製造販売(H26) ・定置網漁獲物の高鮮度処理(神経メ等)を試行(H27) ・室戸沖合船漁業船主組合の若手船主などが近海マグロのPRを目的に「土佐室戸船軍団」を結成し、高校での出前授業や加工品の開発、イベントでの試験販売等の取組を開始(H29~) ・定置網漁獲物の高鮮度処理(活魚)を試行(H30) ◆関西市場を中心にキンメダイのPRを行ってきた結果、高級食材としてのキンメダイの認知度が向上し魚価の上昇につながった。 また、キンメダイの冷凍フィレが業務筋から高い評価を受けるとともに、地域グルメのキンメ丼の材料として定着し、販売額が増加した。 ◆マグロ内臓の加工品が首都圏飲食店でのフェアメニューに採用、ふるさと納税返礼品として販売	・定置網漁獲物の付加価値向上 ・定置網経営体の収入の安定化 ・室戸の近海マグロの付加価値向上 ・マグロ内臓の加工品の加工体制の構築	◆高鮮度処理魚の安定生産と販路確保 〔室戸市定置漁業振興協議会〕 ◆漁業者による簡易な自家加工品の製造販売 〔中芸定置網漁業振興協議会〕 〔土佐室戸船軍団〕 〔美阿丸〕 ◆高鮮度を売りにした定置網漁獲物の販売促進 〔中芸定置網漁業振興協議会〕 ◆安定的な漁業生産の確保
8 安芸市のシラス漁業者所得の向上 《安芸市》	平成25年に設立したシラス加工所によるシラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化と、シラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。	・安芸漁協 ・(株)安芸水産	アクションプランの取組開始:H21 ・企業、漁協、漁業者による加工処理能力向上に向けた協議(H23) ・シラス加工施設完成(H24) ・地元からの雇用創出(H24~) ◆各種イベントでのPRや直販所での販売実施を通じて商品の認知度が高まった。 ◆鮮度保持について、他の漁港の視察を通じ、導入に向けた機運が高まった。	・漁業者、漁協、シラス加工業者による関係者の事業収入向上に向けた取組体制の構築 ・製造・出荷体制の強化、収益性の向上、販路拡大 ・シラス漁の鮮度保持体制の構築	◆シラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化 ◆商品力、販売力の強化と新たな販路確保 ◆シラスの鮮度向上
		〔水産加工〕 ・(有)タカシン水産	・水産加工施設(室戸工場)を整備し、地域の定置網漁獲物等を中心とした加工事業に着手(H21) ・主力の「しめサバ」に加え、ギフト用漬け商品、メジカフレーク、キンメフィレ等をはじめとする定番商品を開発し、販売(H21~28) ◆地域の雇用(11人)に貢献していることに加え、加工生産技術の向上等に伴い安定品質及び安定生産が確保されており、取引先が順調に増加してきている。	・水産加工の促進による付加価値向上	◆生産性向上と販路拡大

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>高鮮度処理魚の安定生産と販路確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高岡大数での生産・出荷体制の構築 ・高鮮度処理手法のマニュアル化による安定品質の確保 ・安定出荷のための小割生糞の常設 ・マニュアルの活用による高岡以外の大数組合への高鮮度処理技術の普及、定着 <p>室戸市内の各大数組合が参画した高鮮度処理魚の生産・出荷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高知家の魚応援の店」制度等の活用による県外飲食店への販路確保 ・高知県漁協販売子会社と連携した販路確保 ・室戸市内の飲食店での取扱いの働きかけと、観光商材としてのPR ・鮮魚仲卸業者等を通じた高知市内の飲食店向け販路の拡大 					<p>高鮮度処理魚の販売額 (H26:0千円)</p> <p>加工品の販売額 (H26:0千円)</p>	<p>20,000千円</p> <p>3,000千円</p>	
<p>漁業者による加工品の製造販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易加工品(イカ沖漬け等)の製造体制の確立 ・地域の直販所の商材やふるさと納税の返礼品としての定着 ・地域外への販路拡大による販売金額の増加 ・新たな加工品の開発 <p>室戸付近の近海マグロのPR</p>							
<p>高鮮度を売りにした定置網漁獲物の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県漁協販売子会社と連携した県内外への販路拡大(高知家の魚応援の店制度の活用等) ・地元直販所や高知市内における鮮魚直販イベント等の継続 							
<p>安定的な漁業生産の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁獲物全体の価格の度上げに向けた、船上での鮮度管理(氷の適正使用等)のマニュアル化と励行 ・漁獲量の増大に向けた、漁具、漁網の水中形状の調査や、調査結果を踏まえた改良 ・急潮被害の軽減に向けた学習会の開催や防災対策の実践 							
<p>生産性向上と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁獲物等を原料とした定番商品の開発とブランディング ・遠洋マグロ漁業者と連携したマグロ類の差別化商品の開発、販売 					<p>加工品販売額 (H22:0.47億円) (H26:0.8億円) ※(有)タカシン水産室戸工場</p>	<p>1.5億円</p>	
<p>シラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化</p> <p>処理能力の向上に対応した漁業者、漁協、加工業者、行政等の連携強化(関係者間の協議)</p>					<p>水揚げ金額 (H26.1月~12月: 201,740千円)</p>	<p>210,000千円</p>	
<p>商品力、販売力の強化と新たな販路確保</p> <p>製造・出荷体制の強化、販路拡大</p>					<p>シラス漁獲量 (H26.1月~12月:393t)</p>	<p>420t</p>	
<p>シラスの鮮度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度調査 ・鮮度保持機器の導入に向けた検討 ・鮮度保持機器の導入 							

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
スジアオリ養殖事業のさらなる発展					→	スジアオリ生産量 (高岡漁港) (H26:2.4t)	3t
既存事業の高品質化と生産量拡大に向けた検討							
新規展開に向けた検討	生産・加工体制の確立			事業展開			
深層水商品のブランド化による販売力の強化					→		
商品PR及び販促活動							
海洋深層水を利用した海藻等養殖の研究開発					→		
新たな海藻等の陸上養殖技術の確立							
生産体制のモデル作りと実用化							
施設整備					→	売上高 (H26:308,334千円)	370,000千円
全体構想の協議	施設整備の検討	施設整備の実施					
農業の6次産業化の推進					→	来場者数 (H23:244,968人) (H26:230,887人)	260,000人
法人による農業経営に向けた方向性の確認	組織・人員体制の検討						
	生産品目の検討						
	農地の選定・準備・農作物の栽培						
	加工品の開発・試作						
販路拡大と集荷体制の整備					→		
販路拡大							
持続可能な集荷システムの検討	集荷の試行・実施						
県外の道の駅等との連携					→		
連携先の検討		連携内容の検討・実施					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
11 安芸本町商店街を中心とする地域の活性化 《安芸市》	「全国商い甲子園」の開催や、チャレンジショップ、中山間の移動販売などの取組を進めるとともに、新たな集客イベントや空き店舗対策等を行うことにより、商店街や周辺地域の活性化を促進する。	・安芸本町商店街振興組合 ・安芸商工会議所 ・安芸市	アクションプランの取組開始:H29 ・「全国商い甲子園大会」開催(H20～) ・産業振興アドバイザー活用によるワークショップの開催(H29) ・空き店舗を活用し、コミュニティスペース「満子の部屋」を開設(H30)	・店舗数の減少	◆商店街を中心とする地域の活性化 ◆商店街への開業の誘致
12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 《東洋町》	高知県の東の玄関口である東洋町の観光拠点施設および地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」により地域の活性化を図る。	・東洋町 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始:H21 ・H20.1月、海の駅東洋町(木造平屋建、171㎡)開設 ・H24.7月の火災による焼失のため、産業振興総合補助金を活用しH25.12月再建(木造平屋建、267㎡) ・H26.1月から運営再開 ◆順調に売り上げを伸ばしている。 売上高 H27:161,151千円 H28:177,031千円 H29:167,576千円 来場者 H27:174,122人 H28:189,747人 H29:178,883人 ・教育旅行の受入(H28:1回,H29:2回,H30:2回) ・直販所支援アドバイザー派遣制度の活用(H28、接客マナーとPOP作成研修) ・直販所活性化セミナー受講(H30、売り場改善、集客活動)	・運営体制の強化 ・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の強化	◆運営体制の強化 ◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売
13 有害鳥獣等を活用した商品開発と販路開拓 《東洋町》	有害鳥獣であるイノシシやシカなどを活用して、食肉加工のほか町内で未利用となっている魚や野菜と組み合わせたペットフードを生産・販売するための加工施設を整備し、生産・販売体制を確立することにより、ジビエ振興による地域の活性化を図る。	・(株)熊谷ファーム ・(株)マルキョウ	アクションプランの取組開始:H28 ・町の補助金を活用し販促ツール等の作成(H28)	・運営体制の確立 ・新商品の開発 ・販路の開拓	◆加工施設の整備 ◆商品開発と販路拡大

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
	商店街を中心とする地域の活性化 「全国 商い甲子園」等の既存イベントの拡充や情報発信の強化 他の団体や学校との連携によるイベントの企画・実施 観光資源を活用した観光客の誘致				空き店舗等を活用した新規開業 (H28:0件)	3件(H29~31累計)	
	商店街への開業の誘致 空き店舗の状況調査、移住対策と運動した空き店舗情報の発信 チャレンジショップの取組		空き店舗を活用するための意見交換会の開催と活用策の実施				
	運営体制の強化 出品者勉強会の開催、従業員研修の実施 責任者の配置				売上高 (H22:133,765千円) (H26:141,938千円) 来場者数 (H22:153,446人) (H26:157,790人)	168,990千円 180,000人	
	地域特産品を活用した加工品の開発・販売 加工品の開発・販売による地産外商 加工施設の整備に向けた検討 ネット販売の検討			ネット販売の実施			
	加工施設の整備 施設整備の検討・整備 原料確保の強化			加工体制・設備の強化	売上高 (H26:0千円)	20,000千円	
	商品開発と販路拡大 新商品開発・商品のブラッシュアップ 販促ツールの作成・販路の開拓 ブランド化に向けた取組						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>14 地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大</p> <p>《奈半利町》</p> <p>※地域産業クラスター関連(奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター)</p>	<p>集落活動センターが中心となり、地域食材を活用した特産品の企画・開発を促進するとともに、情報発信や販促の強化により奈半利ブランドを確立し、地域経済への波及効果を拡大を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈半利町 ・JA高知県(安芸地区) ・奈半利なんでも市加工グループ ・(一社)なはりの郷 ・NCL48 ・漁協女性グループ 	<p>アクションプランの取組開始:H26</p> <p>【JA加工施設(奈半利味噌)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振補助金の活用による施設の増床及び機械の追加導入(H26) ◆「奈半利味噌」の増産体制が整備された。 ・商品紹介リーフレット作成(H30) <p>【農水産加工施設(奈半利のおかつて)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発及び担い手の人材育成のため、エリアマネジメントを実施(H26) ・地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の整備(H28) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が奈半利のおかつての指定管理者となる。(H28～) <p>【水産加工施設(加領郷魚舎)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発及び担い手の人材育成のため、エリアマネジメントを実施(H26) ・地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の整備(H28) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が加領郷魚舎の指定管理者となる。(H28～) ・新商品の開発(缶詰)(H29～) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通販事業の開始(H28～) ・奈半利町観光推進事業の実施(H28～) ・農作業受委託のオペレーター受託(H28～) ・農作物の生産開始(H28～) ・集落活動センター推進事業補助金活用(農機具や集出荷センター内備品の購入)(H29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業運営体制の構築 ・加工商品の販路拡大 ・新商品の開発及び販売体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地産外商の強化 ◆運営体制の強化 ◆情報の発信・交流人口の拡大 ◆一次産業の振興
<p>15 完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用</p> <p>《田野町》</p>	<p>製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・田野町 ・民間事業者 	<p>アクションプランの取組開始:H24</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩づくりの過程を見学・体験できる施設を整備(H24)、H25オープン ・町内の産業振興等の業務とあわせて、体験施設運営や塩づくりに携わる地域おこし協力隊を導入(H25:4人、H26:2人、H27:2人、H28:2人、H29:2人、H30:4人) ・台風被害によりH26.8月以降休止、H27.4月から再開。 ・新たな体験メニューの実施(H27) ・塩に関する掲示物の作成及び多言語表記(H27) ・産業振興総合補助金(担い手育成)を活用し、製塩研修施設を整備(H29) ・生産用レンタルハウス建設(H30) ・製塩体験施設はスタッフ不足によりH29.10～H30.5まで休館。 ・ゆずFesプログラムの実施(H30) ◆施設の知名度が上がって、町内外から多くの学校が訪れるようになり、体験教育の場として活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験施設の実施体制の確立 ・集客できる体験メニューの充実 ・新規就業者の育成と関連産業への波及 	<ul style="list-style-type: none"> ◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増 ◆新規就業者の育成・環境整備 ◆関連産業への波及

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地産外商の強化</p> <p>ふるさと納税返礼品手配事業の受託</p> <p>新商品の開発・加工商品の磨き上げ</p> <p>販売ルートの開拓</p> <p>奈半利ブランドの確立に向けた取組(外商機能の強化・町産品のPR等)</p> <p>集出荷センターの整備</p> <p>通販サイトの充実・通販サイトを活用した特産品販売の強化</p>					JA加工施設(奈半利味噌)の売上高(H26:5,140千円)	9,120千円	
<p>農水産加工施設の売上高(H26:0千円)</p> <p>水産加工施設の売上高(H26:3,220千円)</p>					9,000千円	12,000千円	
<p>運営体制の強化</p> <p>人材育成事業の実施</p> <p>加工者グループの運営体制の整備(法人化等の検討)</p> <p>後継者の確保及び育成</p>					集出荷センター取扱高(H27.7月～H28.6月:2億円)	12億円	
<p>情報の発信・交流人口の拡大</p> <p>奈半利町観光推進事業の実施</p> <p>移住の促進(相談窓口の設置、空き家バンク、モニターハウスの管理)</p>							
<p>一次産業の振興</p> <p>中山間農業複合経営拠点稼働に向けた運営委員会での検討</p> <p>農機具の貸出・業受委託・新規就農者受入等の取組</p> <p>農作物の生産</p>							
<p>製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増</p> <p>施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの作成と更なるPRによる誘客増</p>					体験受入回数(H25:24回)	28回	
<p>新規就業者の育成・環境整備</p> <p>・方向性・実施方法の検討</p> <p>・関係者間の調整</p> <p>施設整備</p> <p>新規就業者の育成</p> <p>新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整</p>					受入人数(H25:体験226人、見学:960人計1,186人)	体験:271人 見学:1,152人 計 1,423人	
<p>関連産業への波及</p> <p>農産物等への活用検討、加工品開発の支援、販路拡大の支援等</p>					塩関連での就業者数(H26:2人)	10人(累計)	

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
機能強化・小さな拠点化のための施設整備等				→	年間売上高(1月～12月) (H26:258,729千円)	400,000千円
・今後のあり方検討 ・基本計画の策定 ・関係者間の協議		・実施計画の策定 ・具体的な準備	事業実施			
直販・飲食機能の強化				→	年間入込数(1月～12月) (H26:221千人)	265千人
課題の洗い出しと改善						
人材育成(スキルアップ研修、先進地視察等)						
情報発信機能の強化・交流人口の拡大				→		
顧客のニーズ把握とインターネット・ガイドマップ等を活用した情報発信						
観光・宿泊施設との連携による情報の共有と誘客及び交流人口拡大のための取組						
人材育成(OJTによる育成、先進地視察等)						
加工品の開発・販売の強化				→		
加工品開発・販売に向けた態勢づくりと人材育成						
素材の掘り起こし、生産者と連携した加工品づくり						
安定供給の仕組みづくり				→	売上高 (H22:87,000千円) (H26:135,000千円)	200,000千円
集荷システムの検討・営業時間の検討、試験的实施	見直し・本格的実施					
新商品の企画開発及び集落活動センターと連携した外商活動				→		
検討・試作・テストマーケティング	商品化・販売開始	商談会や展示会への出展				
地域観光情報の発信				→		
ホームページ等の整備	ホームページやfacebookでの情報発信・パンフレット設置コーナーの充実					
体験メニューの開発・実施				→		
体験メニューの開発						
体験メニューの実施						
検証	磨き上げ	検証	磨き上げ			

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
18 安芸地域の観光振興の推進 《安芸地域全域》	H27年度に開催された東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させることにより、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて新たに設立した広域観光組織の基盤を整備し、体験プログラムの磨き上げ、民泊の推進、情報発信等を行うとともに、歴史と食、地域文化の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進する。	・(一社)高知県東部観光協議会 ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者	アクションプランの取組開始:H21 ・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1人雇用(H22.6月~) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェンツセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.5~6関西) ・教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25) ・東部地域博覧会の「基本計画」(H25)、「実施計画」(H26)の策定 ・東部地域博覧会の推進に向けたイベント審査会、企画運営部会、企画運営コアメンバー会、広報顧客部会、受入おもてなし部会の設置及び開催(H26) ・広域観光アドバイザー研修:13回(H26) ・東部博現地研修:3回(H27) ・東部地域博覧会実施計画に基づく広報PR及びセールス活動(H26~27) ・(一社)高知県東部観光協議会設立(H27) ・高知県東部観光協議会を中心とした県外での観光PR実施、旅行会社へのセールス活動実施、東部地域での民泊候補世帯の訪問による民泊登録世帯の増加(H28~30) ・マーケティング調査の実施(H28) ・(一社)高知県東部観光協議会が第2種旅行業登録(H28) ・日本版DMO形成に向けた観光戦略の検討・策定(H29~30) ・日本版DMO候補法人への登録(H30) ◆DMO形成に向けた観光戦略を策定し、基本理念やターゲット層、抱える課題等を関係者間で共有し協議することができた。また、取組が進み日本版DMO候補法人として登録された。	・東部博の成果の継続と地域への波及 ・東部観光協議会の基盤整備及びミッションの明確化 ・東部地域内の行政や住民との連携強化 ・戦略的な商品造成 ・教育旅行に向けた民泊及び体験メニューの充実と人材育成	◆東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施 ◆観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携 ◆戦略的な広報・PR活動の展開 ◆着地型商品の造成・販売 ◆教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施
19 日本遺産を活用した中芸地域の活性化 《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》	日本遺産認定を受けた魚梁瀬森林鉄道遺産やゆずロード等を活用し、中芸地域の交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。	・奈半利町 ・田野町 ・安田町 ・北川村 ・馬路村 ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会 ・中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協議会	アクションプランの取組開始:H21 ・旅行会社等によるツアーの催行(H22~) ・案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23) ・観光用ビデオの作成(H22) ・開通100周年事業の実施(H23~24) ・ガイドの育成27人(H21~23) ・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置(H25) ・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主的な活動の充実(H25) ・東部博関連イベントとして魚梁瀬森林鉄道ジオラマ展及びアート&ライブの実施(H27) ・保存活用計画策定(H27) ・中芸5町村、地域団体、大学等により「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立(H28) ・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会による日本遺産認定申請(H28) ・日本遺産認定(H29) ・日本遺産魅力発信推進事業の実施(H29~) ・日本遺産協議会事務局発足(H30~) ◆魚梁瀬森林鉄道に係る様々なイベントや研究活動等がなされており、林鉄ガイドも中芸地域の体験型観光の一つとして定着している。また、H29には日本遺産関連の旅行商品が造成されるなど、観光地づくりが進んでいる。	・日本遺産の認知度向上 ・日本遺産魅力発信事業(国補助事業)終了後の仕組みづくり	◆日本遺産の活用と普及啓発・交流人口の拡大 ◆保存活用計画策定後の整備及び活用策の検討

第3期計画					H32以降	指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)		
<p>東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施</p> <p>旅行業の登録</p> <p>マーケティング調査及び分析の実施並びに調査結果に基づく観光戦略づくり</p> <p>マーケティング調査の継続実施及び観光戦略の実施</p>					<p>圏内主要施設訪問者数(圏内観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数)(1月～12月) (H27:2,401,821人) ※うち、キラメッセ室戸館 5,565人 安芸市立歴史民俗資料館 5,868人 岡御殿 2,450人 安田まちなみ交流館・和 676人 中岡慎太郎館 7,499人</p> <p>圏内宿泊者数(1月～12月) (H27:138,229人)</p>	<p>2,606,000人 ※うち、キラメッセ室戸館 8,000人 安芸市立歴史民俗資料館 7,000人 岡御殿 5,000人 安田まちなみ交流館・和 4,500人 中岡慎太郎館 10,000人</p> <p>150,000人</p>		
<p>観光協会等の機能強化と東部観光協会との連携</p> <p>観光協会等の機能強化・情報共有会議の継続開催による役割分担の明確化及び目標の共有</p>								
<p>戦略的な広報・PR活動の展開</p> <p>東部地域のホームページ作成</p> <p>旅行エージェント、マスコミ等への戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化</p>								
<p>着地型商品の造成・販売</p> <p>旅行業の登録</p> <p>体験プログラムの磨き上げやマーケティング調査結果を活用した東部地域での周遊観光の商品化及び東部地域での観光クラスターづくりへの支援</p>								
<p>教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施</p> <p>教育旅行の受入体制の強化による誘客の推進</p> <p>地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備</p> <p>民泊の推進、人材の養成、インバウンド対策など受入体制の整備</p>								
<p>日本遺産の活用と普及啓発・交流人口の拡大</p> <p>日本遺産認定申請に向けた取組</p> <p>日本遺産魅力発信推進事業を活用した情報発信、人材育成、普及啓発、調査研究等の事業実施</p> <p>協議会の自主財源による事業実施</p> <p>地域住民等の参画促進</p> <p>魚梁瀬森林鉄道ジオラマを活用した交流人口の拡大に向けた取組及び拠点づくりの検討</p> <p>日本遺産等を活用した拠点施設整備の検討</p> <p>拠点施設整備</p> <p>魚梁瀬森林鉄道遺構見学ツアー等の実施と森林鉄道のネットワークを活用した普及・啓発活動</p> <p>大学連携事業を契機とした全国に向けた情報発信の取組</p>							<p>ツアー等による林鉄ガイド実績 (H26:846人)</p> <p>拠点施設年間来館者数 (H26:0人)</p>	<p>1,500人</p> <p>1,000人</p>
<p>保存活用計画策定後の整備及び活用策の検討</p> <p>計画に基づく施設整備等、保存と活用を支える仕組みづくり</p>								

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
20 室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興（室戸市）	世界ジオパークに認定された室戸ジオサイトやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、各施設の連携強化により周遊・滞在型観光への転換を図る。	・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会 ・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸黒潮協同組合 ・(一社)うみ路 ・NPO法人日本ウミガメ協議会 ・ライダーズイン指定管理者 ・民間事業者	<p>アクションプランの取組開始:H21<ジオパーク> ・日本ジオパーク全国大会の開催(H24) ・室戸世界ジオパークセンターの整備(H25~26) ・室戸世界ジオパークセンターオープン(H27) ・世界ジオパーク再認定(H27) ・土佐の観光創生塾に参加(H27:5人) ・観光アドバイザーによる館内ガイド接遇研修実施(H28) ・室戸世界ジオパークセンター施設の拡充(H28:映像体感コーナーの設置等、H29:映像体感コーナーの拡充(2面→3面化)等) ・室戸ジオパークガイドスキルアップ研修(H29) ◆日本ジオパーク全国大会(参加者:約2,200人)を開催し、宿泊・食事利用等の経済効果や地域住民との連携が図られるとともに、室戸ジオパークの理解が促進された。また、ジオパークの拠点となる「室戸世界ジオパークセンター」の整備により、受入体制が強化された。 ・日本ジオパーク再認定(H30)</p> <p>ジオパークガイド利用者数 H27: 10,592人 H28: 7,743人 H29: 7,115人 室戸世界ジオパークセンター来場者数 H27: 103,065人 H28: 76,629人 H29: 73,811人</p> <p><海の駅とろむ> アクションプランの取組開始:H21 ・施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21~23) ・広告宣伝の強化(H21~23) ・体験プログラムの見直し(H22~23) ・陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備(H24) ・補助プールの整備(H25) ◆高難プログラムドルフィンスイムの参加者の推移 (H20:1,204人→H26:1,464人→H27:2,071人→28:1,561人→H29:1,231人) また、設備等の充実や物販・休憩スペースの確保により、来場者の満足度の向上、事業収入の増加につながった。 ・スジアオノリ養殖施設の整備(H29)</p> <p><むろと廃校水族館> アクションプランの取組開始:H27 ・施設改修工事完了(H29) ・廃校水族館来館者数 H30.12末時点 125,271人</p>	<p>・施設間の連携による周遊型、滞在型観光への転換 ・体験型観光地としての認知度向上</p> <p><ジオパーク> ・受入体制の強化 ・ジオパークセンターの整備</p> <p><海の駅とろむ> ・集客力を高めるための企画及びPR ・周辺施設との連携 ・ダイビング事業展開のための事業体験推進</p> <p><むろと廃校水族館> ・集客の仕組みづくり及び情報発信</p> <p><ライダーズイン> ・周辺施設との連携 ・発信の強化</p>	<p>◆周遊型、滞在型観光の旅行商品開発</p> <p>◆情報発信、営業力の強化</p> <p><ジオパーク> ◆ガイド育成</p> <p>◆ジオツアー・体験プログラムの推進</p> <p><海の駅とろむ> ◆室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化</p> <p>◆室戸黒潮協同組合(だぼうま八、くじらはま)の機能強化</p> <p>◆「貝類等収穫体験」の施設整備</p> <p>◆ダイビング事業展開に向けた施設整備等</p> <p><むろと廃校水族館> ◆施設整備及び施設整備後の集客の仕組みづくり</p> <p><ライダーズイン> ◆施設整備</p> <p>◆広報・PR</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
			周遊型・滞在型観光の旅行商品開発 渚泊(農山漁村体験型観光)の推進 ・体験プログラムの造成及び磨き上げ ・各観光施設及び宿泊施設と連携した旅行プランの		ジオパークガイド利用者数 室戸世界ジオパークセンター来館者数	10,000人 90,000人	
			情報発信、営業力の強 主要観光施設一体となった広報・宣伝・営業力の強化				
ガイド育成							
			ガイド研修(登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成)				
ジオツアー・体験プログラムの推進							
			・既存ジオツアー・体験プログラムのブラッシュアップ ・ジオパークセンターを発着地としたジオツアーの開発 ・ジオツアー・体験プログラムの開発・実施				
情報発信、国際交流							
			日本ジオパーク再審査 世界ジオパーク再審査				
			全国大会及び国際会議でのPR・イベント開催 主要パンフレット等の更新・多言語化				
ジオパークセンターの整備							
			遊休地の利活用検討・整備 体育館・プールの利活用検討 体育館・プールの整備 展示内容のリニューアル				
サイト整備							
			既存ジオサイトの見直し・新規ジオサイトの検討 ジオサイトの再整備				
室戸ドルフィンセンターの広報・営業力					室戸ドルフィンセンター来場者数	31,000人	
			体制強化と人材育成 新規プログラムの開発 オリジナルグッズの開発 施設の磨き上げ ところむ内全施設が連携した情報発信				
室戸黒潮協同組合(ぢばうま八、くじらはま)の機能							
			教育旅行の受入 魅力ある店舗づくりと広報・宣伝活動				
「貝類等収獲体験」の施設整							
			施設整備に向けた検 施設整備 規模拡大に向けた検討 体験プログラムの実施と広報・宣伝活動				
ダイビング事業展開に向けた施設整備等							
			・施設整備の検討 ・関係者との調整 ・運営体制の検討 ・施設整備 ・テナント募集 ・広報 ・ダイビング事業実施 ・ダイビングショップへの情報発信 (ダイビングスポット)				
施設整備及び施設整備後の集客の仕組みづくり					鹿枝水族館来館者数	100,000人	
			施設の改修 ・魚介類等の展示と体験プログラムの実施 ・広報・PRの実施				
			施設整備 基本設計 施設整備 リニューアルオープン		ライダーズイン利用者数	1,500人	
			広報・PR SNSやマスメディアを活用した情報発信				

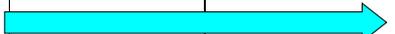
【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>21 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進</p> <p>《安芸市》</p> <p>※地域産業クラスター関連(日本一のナス産地拡大プロジェクト)</p>	<p>既存の観光資源の磨き上げや、自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安芸市 ・安芸市観光協会 ・漁協 ・伊尾木あなごう保存会 ・内原野陶芸館 ・JA高知県(安芸地区) ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・廊中ふるさと館 ・メリーガーデン ・はたやま夢楽 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会 ・道の駅大山 	<p>アクションプランの取組開始:H21</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐龍馬であい博での、ころざし社中開催(H22入場者、113千人、目標100千人) ・H23.3月、安芸観光情報センターの設置 ・岩崎弥太郎像の移転(H26) ・廊中ふるさと館の施設改修(H26) ・安芸観光情報センターの改修(H26) ・内原野陶芸館の改修(H26) ・安芸「釜あげちりめん井」楽会による、ちりめん井の市内外でのPR活動やちりめん井提供店舗拡大の取組(H22～) ・道の駅大山の改修(H29) ・伊尾木洞を核とした観光客の周遊及び満足度向上のための取組開始(H29) ・伊尾木洞にガイドが常駐できる観光案内所や多目的トイレ等を整備(H30) ・内原野陶芸館に小型電気窯を設置(H30) ・岩崎弥太郎の長男、久弥氏の縁で安芸市ほか県外3自治体からなる広域文化観光協議会を設立(H30) ◆「志国高知 幕末維新博」の取組の中で、地域会場である安芸市立歴史民俗資料館のほか、五藤家邸、岩崎弥太郎生家等歴史関連施設の修繕等が実施された。また、伊尾木洞や内原野陶芸館では「自然・体験キャンペーン」も見据え、施設の充実など、魅力向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの充実 ・市内での滞在時間の延長、観光消費額の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ◆岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上) ◆大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上 ◆地域食材を活用した地域ブランド力の向上 ◆新たな体験プログラムの造成 ◆既存体験プログラムのブラッシュアップ
<p>22 東洋町における体験型・滞在型観光の推進</p> <p>《東洋町》</p>	<p>サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行うことにより交流人口の拡大を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・宿泊事業者 ・東洋町観光振興協会 	<p>アクションプランの取組開始:H25</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県観光拠点整備事業費補助金を活用し、白浜キャンプ場敷場を整備(H26) ・地域おこし協力隊(観光)1人着任(H26) ◆整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組の方針決定につながった。 ・体験プログラムの開発(H26～) ・こけら祭りの開催(H26～) ・産振アドバイザー制度の活用(東洋町観光振興協会の課題整理と人材育成など:3回) ・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアーの実施(1回) ・教育旅行の受入(H28:1回,H29:4回) ・観光アプリの提供開始(H28) ・産振アドバイザー制度の活用(H29、地域資源の活用) ・女子旅モニターツアー「美・trip TOYO 2017」の実施(H29) ・阪急交通社と連携した「夏休み親子体験ツアー」美・trip TOYO 2018の実施(H30) ・マリンフェスティバルの実施(H30) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活かした体験プログラムの開発 ・地元事業者(サーフショップ等)との協調 ・受入施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発 ◆東洋町観光振興協会の体制強化 ◆誘客の促進 ◆サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)</p> <p>パワースポットとしての認知度向上に向けた検討</p> <p>観光案内施設及び周辺の整備 (案内ガイド待機所、案内板、トイレ改修、安芸観光情報センターリニューアル等)</p> <p>岩崎家をゆかりとする自治体、企業との連携・交流の推進</p>					<p>市内年間観光客数 (H26:196,895人) ※うち、 安芸市立歴史民俗資料館 3,651人</p> <p>市内年間宿泊者数 (H22~26平均値: 22,721人)</p> <p>ちりめん井販売食数 (H26:40,846食)</p>	<p>300,000人 ※うち、 安芸市立歴史民俗資料館 7,000人</p> <p>25,000人</p> <p>50,000食</p>	
<p>大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上</p> <p>大山岬(恋人の聖地)の魅力発信(イベントの企画・開催)</p> <p>大山岬周辺と道の駅の施設整備の検討・実施</p>							
<p>地域食材を活用した地域ブランド力の向上</p> <p>・ナス・ユズ・土佐ジロー・シラス・マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発・磨き上げ ・メニュー・商品の販売促進・PR活動(釜あげちりめん井、安芸まるごと井等)</p> <p>ナスの消費拡大に向けた取組(道の駅大山でのナス食材のメニュー化等)の検討・実施</p> <p>安芸産土佐ジローの認知度向上と消費拡大に向けた取組の検討・実施</p> <p>安芸産土佐ジローやナス等、地域食材のプロモーション動画による情報発信</p> <p>安芸産土佐ジローの加工処理施設の検討・整備等</p>							
<p>新たな体験プログラムの造成</p> <p>・シラス漁見学、果実(ユズ等)収穫体験等の新たな体験プログラムの造成(関係者等との体制構築) ・モニターツアーの実施</p>					<p>体験者数 (H27:0人)</p>	<p>5,000人</p>	
<p>既存体験プログラムのブラッシュアップ</p> <p>既存体験プログラムのブラッシュアップ</p>							
<p>海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発</p> <p>海の駅の観光案内窓口の強化</p> <p>体験プログラムの磨き上げと開発およびガイド育成</p>							
<p>東洋町観光振興協会の体制強化</p> <p>法人化と事務局体制強化</p> <p>人材育成</p>							
<p>誘客の促進</p> <p>農林漁家民泊の推進</p> <p>魅力的な観光地域づくり、観光情報の発信・プロモーション</p>							
<p>サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化</p> <p>アンケート調査</p> <p>整備内容の検討</p> <p>施設と備品の整備</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>23 奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町》</p> <p>※地域産業クラスター関連(奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター)</p>	<p>藤村製絲記念館、海浜センター、米ヶ岡生活体験学校の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・奈半利町(一社)なはりの郷</p> <p>・藤村製糸(株)</p> <p>・海浜センター</p> <p>・米ヶ岡生活体験学校</p>	<p>アクションプランの取組開始:H26</p> <p>・高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、観光拠点施設となる藤村製絲記念館を建設(H26)</p> <p>・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が事業主体となり、高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、新たに観光案内看板、観光ガイドブック、町歩きマップ、展示用パネルを整備(H28)</p>	<p>・藤村製絲記念館の活用拡大</p> <p>・海浜センターの誘客活動の強化</p> <p>・関係機関との連携</p> <p>・広報等の強化</p>	<p>◆記念館の活用拡大</p> <p>◆海浜センターの誘客活動の強化、体験型観光の推進</p> <p>◆米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進</p>
<p>24 安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化</p> <p>《安田町》</p>	<p>安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用客数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。</p>	<p>・安田町</p>	<p>アクションプランの取組開始:H31</p>		<p>◆キャンプ場の再整備による磨き上げ</p> <p>◆利用客数アップに向けた仕組みづくり</p>

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
					記念館来館者数(1月～12月) (H26:0人)	1,500人
記念館の活用拡大 観光資源としての磨き上げ	(一社)高知県東部観光協議会等と連携した誘客活動の強化				海浜センター利用客数 (H26:382人)	
町内ガイド組織との連携	町並みガイド等での活用拡大					海浜センターの誘客活動の強化、体験型観光の推進 施設整備・周辺整備の検討・整備 体験プログラムの造成・磨き上げ 戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化  米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進 体験・交流イベントの強化、情報発信
住民とのワークショップによる観光施策の検討	観光パンフレットの作成やホームページ等による情報発信の強化					
				 キャンプ場の再整備による磨き上げ 実施設計、施設整備 リニューアル施設の供用開始・運営、アウトドアの専門家等との連携  利用客数アップに向けた仕組みづくり ・運営体制の強化 ・集客に向けた取組の実践(イベントの充実、情報発信の強化) ・体験メニューの強化 ・周辺施設への入り込み客数増加や地域食材の利活用の推進	キャンプ場利用者数 (H29:2,765人)	3,000人

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>3施設のターゲットに応じたプロモーション活動</p> <p>ターゲット(エリア別、属性、季節別)に応じたプロモーション方法の検討</p> <p>ターゲット別プロモーション活動の展開 (マスコミ、タウン誌、ロコミ、SNS、ブlogger、レストランなどの活用)</p>					<p>各施設入園(館)者合計数 (H26:80,983人) ※内訳 モネの庭 53,174人 (H26.4~H27.3) 北川村温泉 21,682人 中岡慎太郎館 6,127人</p>	<p>108,000人 ※内訳 モネの庭 70,000人 北川村温泉 28,000人 中岡慎太郎館 10,000人</p>	
<p>3施設の連携強化、各施設の磨き上げ</p> <p>3施設の周遊の仕組みづくりの検討 (周遊マップの作成、レンタサイクル、スタンプラリー等「志国高知 幕末維新博」と連携したイベントの開催)</p> <p>3施設の周遊の仕組みの実践と磨き上げ (実施→課題の洗い出し→磨き上げ)</p> <p>モネ開園20周年に向けたPR</p> <p>モネ開園20周年イベントの開催</p> <p>外国人観光客受入促進のための施設整備等 (Wi-Fi整備、多言語看板の整備等)</p>							
<p>温泉施設の整備及びび活用</p> <p>実施設計</p> <p>施設の整備</p> <p>営業再開</p> <p>集客に向けた取組 (リニューアルオープン告知、パンフレットの作成、施設周辺での体験プログラムの提供など)</p>							
<p>施設整備</p> <p>施設の改修</p> <p>管理運営体制の検討</p> <p>集落活動センターの設置</p> <p>住民の組織づくり</p> <p>事業内容の検討</p> <p>情報発信</p> <p>PR方法の検討</p>					<p>集活センター利用者数 (H26:0人) 交流イベント開催数 (H26:0回)</p>	<p>5,500人 200回</p>	
<p>交流イベントの開催・イベントのブラッシュアップ</p> <p>販売活動充実に向けた施設利用方法等の検討</p> <p>事業活動の展開</p> <p>外部人材の活用</p> <p>広報・PRの実施</p>							

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域資源を活用した新商品の開発					→	入河内大根生産量 (H26:3,000本)	5,000本
商品開発(新商品、ギフトセット等)						交流イベント参加者数 (H26:350人)	450人
販路拡大(ネット販売)							
販売体制の整備、東川のブランド作り							
農産物等の販路拡大					→		
入河内大根の栽培方法確立							
入河内大根生産拡大、販路拡大、加工品の検討					→		
交流人口の拡大							
交流イベントのブラッシュアップ、参加者との繋がりを継続できる取組の検討							
憩いの家の活用方法について検討・施設の改修等					→		
移住促進への取組							
空き家を移住促進住宅へ改修							
移住促進住宅の開設、移住者の受入							
空き家活用に向けた取組(掘り起こし、交渉)					→		
旧中山小中学校を活用した多機能総合交流拠点施設の整備							
活用策の検討							
施設整備(段階的に整備)							
施設を活用した地域のにぎわいづくり					交流人口 (H26:3,329人)	3,600人	
集落活動センターの取組の充実					じねんレジ通過者 (H26:25,711人)	28,000人	
地域福祉活動・支え合いの推進(集いの場・健康づくり活動等の発展と継続)					集落活動センター利用者数 (H26.12月～H27.3月: 689人)	3,200人	
大学連携事業による地域の活性化							
耕作放棄地の解消に向けた取組や空き家情報の収集活動							
観光資源の発掘と磨き上げ(魚梁瀬森林鉄道や郷土出身の維新の志士等の資源活用)					観光資源の活用による「志国高知 幕末維新博」との連携		
観光素材として定着化に向けた取組の継続							
経済的自立に向けた取組					→		
自然蓄栽培拡大							
規格外品の加工、販売、販路の開拓							
ふるさと応援隊による特産品開発、販売							

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地域交流活動の展開</p> <p>休耕田を活用した花畑づくりや関連イベントの企画、開催</p> <p>地域おこし協力隊導入の検討と公募</p> <p>地域おこし協力隊の活用</p> <p>新たな活動の掘り起こし</p>					<p>交流イベント参加者数 (H27:400人)</p>	<p>700人</p>	
<p>北川村温泉との連携</p> <p>温泉施設のリニューアル工事</p> <p>チラシ、ホームページ、マスコミを活用した情報発信</p> <p>温泉再開後の北川村中部地区集落活動協議会の活動の検討</p> <p>温泉での直販コーナー運営等、温泉と地域との連携イベントの開催</p>							
<p>田舎暮らし体験、移住促進への取組</p> <p>小島地区への移住お試し住宅整備の検討と改修工事</p> <p>移住お試し住宅のPRと活用(マスコミ、ホームページ、移住相談会での広報)</p> <p>田舎暮らし体験メニューづくり (ゆず収穫、鮎釣り、田舎寿司づくり、家庭菜園等)</p> <p>体験メニューの実施・ブラッシュアップ</p>					<p>丸山公園魚梁瀬森林 鉄道利用者数 (H24～26平均値: 1,523人)</p>	<p>1,830人以上</p>	
<p>外部人材の導入と住民組織づくり</p> <p>高知ふるさと応援隊の追加導入</p> <p>高知ふるさと応援隊による地域活性化、観光振興、生活支援等の活動</p> <p>応援隊と住民による 地区活性化に向けた定期的な話し合い</p> <p>住民の組織づくり</p> <p>集落活動センターによる活動の展開</p> <p>土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成</p>							
<p>地域資源を活用した産業おこし</p> <p>魚梁瀬50年記念行事を契機とした地域活性化の取組</p> <p>観光資源の磨き上げと新たな素材発掘</p> <p>農業・林産等の資源の有効活用に向けた検討 (資源のリストアップ)</p> <p>・事業化検討(人材の確保・育成、視察研修) ・事業の試行による課題抽出・改善</p> <p>事業計画策定</p> <p>事業の本格実施</p>					<p>山村留学による魚梁 瀬地区への転入 (H26:4組)</p>	<p>5組 (H28～31累計)</p>	
<p>魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化</p> <p>山村留学の多様な受け入れ方法等の検討及び情報発信</p> <p>学校・地域と連携した山村留学の実施・移住促進</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>31 集落活動センター「げいせい」を拠点とした“小さくてももっと元気で輝くむら”づくり 《芸西村》</p>	<p>村内で活躍する住民が集落活動センターを中心に集結し、村産品の加工品づくりや磨き上げ、観光資源の発掘や活用等に取り組むことにより、村の強みを活かし、地域活性化を図る。</p>	<p>・芸西村 ・芸西村集落活動センター推進協議会</p>	<p>アクションプランの取組開始：H28</p> <p>【運営主体の取組】 ・集落支援員導入(H27) ・芸西村集落活動センター推進協議会設立(H27) ・集落活動センター「げいせい」開所(H27) ・事務所開設(H28) ・定例会・部会の開催(H28～) ・サトウキビ(白玉種)の栽培(H28～) ・シキミの栽培(H29～) ・竹害への対策事業(H30～)</p> <p>【外部人材の導入】 ・集落活動センター推進アドバイザー制度の活用(H28)</p> <p>◆定例会・部会の開催により、地域の意見や課題の抽出が行われ、経済活動として、耕作放棄地でのサトウキビ・シキミの栽培・販売の取組や竹害への対策事業が進んでおり、活動規模も拡大している。また、当該活動を進めるなかで、地域住民の参加意識も醸成され、会員の増加、組織体制の強化につながっている。</p>	<p>・集落活動センターの円滑な運営の継続 ・地域住民の参画</p>	<p>◆地域情報の発信</p> <p>◆移住・定住サポート</p> <p>◆特産品づくりと外商活動</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域情報の発信					サトウキビ収穫量 (H27:0t)	5t	
PR方法検討	PRの実施						
村内外のイベントへの出展・イベントの企画運営							
移住・定住サポート					移住世帯数 (H24~27:3世帯)	5世帯 (H28~31累計)	
空き家掘り起こし							
移住相談会等への参加・情報発信							
特産品づくりと外商活動					サトウキビ収穫量 (H27:0t)	5t	
伝統作物(サトウキビ)の生産・販売							
加工施設の検討			加工施設の建設・運営・特産品開発				
外商活動							